

科目 コード	51641	授業 科目	実践がん看護特論 I Practical Oncology Nursing Theory I			担当 教員	○神里みどり、金城芳秀 佐伯宣久、非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講 義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	がん看護に必要ながんの病態生理、がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。							
到達目標	1. 発がんメカニズムを理解し、がんの病態生理について述べることができる。 2. がんの各種治療方法について説明することができる。 3. がんの予防と早期発見について説明することができる。 4. 病態生理を基盤においたアセスメントについて説明できる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
第1回	がんの疫学と予防、早期発見 ・疫学研究からみたがん予防 ・がんの一次予防から三次予防まで						金城・神里	
第2回	がんの診断と病態分類 ・がんの発生とメカニズム、診断、病期別分類						佐伯	
第3回	がんの手術療法 ・肺がんの病期に応じた治療方法とその選択、術後の侵襲						川畑勉 (非常勤)	
第4・5回	がんの化学療法と病態生理 ・化学療法の作用機序と薬剤の種類 ・分子標的薬、副作用症状とその対策：血液疾患の事例						福島卓也 (非常勤)	
第6・7回	がんの放射線療法と病態生理 ・放射線療法の特徴と原理・方法 ・放射線治療による早期・晩期障害：頭頸部がん、子宮がん						戸板孝文 (非常勤)	
第8回	がんの内分泌療法と病態生理 ・乳がん患者の内分泌療法や薬物療法の目的と特徴						玉城研太郎 (非常勤)	
第9回	がんの再発・転移のメカニズムと治療 ・局所・領域・遠隔転移の特徴 ・血行性転移とリンパ行性転移 ・再発乳がんの診断・治療・予後						玉城研太郎 (非常勤)	
第10回	がんの薬物療法とその薬理作用のメカニズム ・術前化学療法・術後化学療法・化学放射線療法、 抗がん剤のレジメン ・抗がん剤に伴う有害反応対策、血管外露出の予防と対処						永井賢作 (非常勤)	
第11回	がん診療におけるチーム医療 ・緩和ケアにおけるチームアプローチと精神科医の役割 ・がんサバイバーシップの概念とサポートグループ						新屋洋平 (非常勤)	

第12回	がん緩和医療におけるサイコオンコロジー ・がん患者の心の評価とサポートの4段階 ・緩和ケアにおける精神的ケア：適応障害（不安・うつ・せん妄）の診断と治療 ・基本的なコミュニケーションスキル、悪い知らせの伝え方（SHARE）	新屋洋平 （非常勤）
第13回	がん患者のリンパ浮腫のメカニズムと対処法 ・リンパ浮腫の病態・起こる原因、症状 ・がん治療後の後遺症としてのリンパ浮腫の治療 ・リンパ浮腫患者のケア、合併症	松原忍 （非常勤）
第14回	がん治療における治験とエビデンス ・治験の目的と種類・方法、臨床への還元	金城
第15回	がん患者の病態生理を中心としたアセスメントの事例検討 ・これまで受け持ったことのある事例を振り返り、これまで学んできたアセスメントの視点を活用して、事例を分析しプレゼンテーションを行う。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会. (2014). 外来がん化学療法 看護ガイドライン. 金原出版 ・リンパ浮腫研究会. (2014). リンパ浮腫 診療ガイドライン. 金原出版 ・日本乳癌学会（編集）. (2014). 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014年版. 金原出版 ・一般社団法人日本血液学会. (2013). 「造血器腫瘍ガイドライン」2013年版, 金原出版 ・千葉百子. (2009). がんの世界地図. 丸善株式会社 ・日本がん・生殖医療研究会. (2013). がん・生殖医療 妊孕性温存の診療、(2013) 医歯薬出版 ・小林正伸. (2014). やさしい腫瘍学からだのしくみから見る“がん”. 南江堂 ・『コンセンサス癌治療』編集委員会. (2013). 新 癌についての質問に答える. へるす出版 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・大中俊宏、岸本寛史(翻訳). (2013). MDアンダーソン サイコソーシャル・オンコロジー. メディカルサイエンスインターナショナル ・財団法人医療研修推進財団、精神腫瘍学クイックリファレンス、創造出版、2009. ・ディビット・スピーゲル、キャサリン・クラッセン著. (2003). がん患者と家族のためのサポートグループ、医学書院 ・がんの告知と看護師の役割、がん看護、15(1)、2010. ・柴木実枝(監)、濱口恵子・花出正美(編). (2015). 見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・随時参考文献・資料を別途配布する。 	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として各テーマの授業に関連した参考資料を熟読すること。	

科目コード	51642	授業科目	実践がん看護特論Ⅱ Practical Oncology Nursing Theory Ⅱ		担当教員	○神里みどり 前川厚子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間				
授業概要	がん看護に必要な主なる理論について理解し、実践や研究で活用できる能力を養う。						
到達目標	1. がん看護に関する主なる理論の概念について説明できる。 2. 理論を活用して、事例を分析する方法を説明できる。 3. 理論を活用して、介護介入の方法を説明できる。						
回数	授業内容及び計画						担当者名
第1・2回	がん看護における理論を活用した実践と研究の動向 ・実践での理論の活用方法とがん患者・家族を理解する上での理論について ・文献を活用した国内外の理論を活用した研究の動向						神里
第3回	危機理論と看護介入 ・危機理論を活用したがん患者・家族の理解と看護介入 ・危機理論を活用した事例検討						神里
第4回	悲嘆理論と看護介入 ・悲嘆理論を活用した終末期がん患者と家族の理解：予期的悲嘆や悲嘆プロセスの理解 ・悲嘆理論を活用した事例検討						神里
第5回	ストレス・コーピング理論と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した患者・家族の理解と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した事例検討						神里
第6・7回	症状マネジメントモデル ・症状マネジメントモデルを活用したがん患者の苦痛症状の理解と看護介入 ・症状マネジメントモデルを活用した事例検討						神里
第8・9回	全体性パラダイムに基づく理論 ・マーガレット A. ニューマンの健康モデルを活用したがん患者の理解と看護介入 ・健康モデルを活用した事例検討						神里
第10・11回	スピリチュアルケアに関する理論的枠組み ・終末期がん患者のスピリチュアルペインの概念と患者理解 ・終末期がん患者のスピリチュアルケアの実際						神里
第12回	ボディイメージ、セクシュアリティとがん看護援助 ・事例を通じたがん患者のボディイメージとセクシュアリティについて						前川 (非常勤)
第13回	がんサバイバーと在宅家族支援モデル ・がんサバイバーシップの概念と患者理解 ・在宅におけるがん患者と家族の支援モデルについて						前川 (非常勤)

第14・15回	<p>がん看護の理論的枠組みを活用した事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた理論を活用して、学生が体験したがん患者と家族の実際の事例について分析する。 	神里
テキスト	<p>日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院</p> <p>遠藤恵美子. (2003). 希望としてのがん看護. 医学書院.</p>	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小島操子. (2013). 看護における危機理論・危機介入 第3版. 金芳堂. ・筒井真優美(編). (2015). 看護理論(改訂第2版) 看護理論20の理解と実践への応用、南江堂 ・日野原重明. (2014). 実践 がんサバイバーシップ—患者の人生を共に考えるがん医療をめざして. 医学書院 ・近藤まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ—“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・勝俣範之. (2012). がんサバイバー—医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす. 医学書院 ・Patricia A. Ganz, (2007). Cancer Survivorship, Springer, Springer. ・近藤まゆみ, 峰岸秀子(編). (2006). がんサバイバーシップ. 医歯薬出版株式会社. 2006. ・遠藤恵美子. (2001). マーガレット・ニューマン“健康の理論”がひらくもの 希望としてのがん看護. 医学書院. ・遠藤恵美子, 三次真理, 宮原知子. (2014). マーガレット・ニューマンの理論に導かれたがん看護実践, 看護の科学者. ・特集ケアリングパートナーシップの実践的研究 M. ニューマンの健康の理論に基づいて、Quality Nursing 9, 2003, 文光堂. ・パトリシア J. ラーソン/内布敦子. (1998). Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用. 日本看護協会出版会 ・新しい症状マネジメントの概念と実践. インターナショナルナーシングレビュー. 82 20. 1997 ・在宅移行のためのマネジメント 緩和ケア. 19. 2009、青海社. ・メイブ・ソルター(編). 前川厚子(訳). (1992). ボディ・イメージと看護. 医学書院. ・濱口恵子他. (2009). がん患者の在宅療養サポートブック. 日本看護協会. ・新しいケアの創造に向けたがん患者・家族の理解. 看護研究 39. 2006, 医学書院. ・阿部 まゆみ/安藤 詳子. (2015). がんサバイバーを支える緩和ケア・サロン, 青海堂 ・一般社団法人がん看護学会 (著). (2015). 女性性を支えるがん看護 (がん看護実践ガイド). 医学書院 ・窪寺俊之, アルフォンス・デーケン. (2016). スピリチュアルな存在として (スピリチュアルケアを学ぶ). 聖学院大学出版会 ・江本 愛子 (翻訳). (2008). スピリチュアルケア—看護のための理論・研究・実践. 医学書院 ・岡本拓也. (2014). 誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア. 医学書院 ・随時参考文献・資料を別途配布する。 	
成績評価の方法	<p>授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)</p>	
備考	<p>事前学習として、理論の概念に関する文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。</p>	

科目 コード	51643	授業 科目	実践がん看護特論Ⅲ Practical Oncology Nursing TheoryⅢ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 新貝夫弥子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	がん治療によって生じる苦痛症状を予防するための方法や、苦痛症状を早期発見するためのアセスメント指針や苦痛緩和の看護援助法についてエビデンス・ベースド・プラクティスの概念に基づいて探求する。							
到達目標	1. がん治療による苦痛症状の予防方法について説明できる。 2. がん治療による苦痛症状のアセスメントについて説明できる。 3. がん患者の症状マネジメントについて説明できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント ・エビデンス・ベースド・プラクティスと症状マネジメントの概念 ・国内外の研究論文にみるがん患者の症状マネジメントの方略						神里	
第3・4回	化学療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・化学療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・化学療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)						新貝 (非常勤) (CNS)	
第5・6回	放射線療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・放射線療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・放射線療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)						神里	
第7回	内分泌療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・内分泌療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助						神里	
第8回	術後機能障害とその看護 ・術後機能障害を生じたがん患者に対するアセスメントとQOL向上に向けた看護援助の実際						新貝 (非常勤) (CNS)	
第9・10回	緩和医療としての化学療法と放射線療法の看護援助 ・緩和を目的とした化学療法の看護援助 ・緩和を目的とした放射線療法の看護援助						謝花	
第11回	症状緩和のためのガイドラインの活用 ・がん患者の苦痛症状を緩和するためのガイドラインを臨床で活用していくための方略						謝花	
第12回	外来通院中の患者の看護援助と地域支援体制 ・がん治療中やがんのフォローアップ中、緩和ケア目的のために通院治療しているがん患者と家族の支援体制						謝花	
第13・14回	症状緩和のための補完代替療法 ・がん療養中(治療から終末期まで)の患者・家族に対する補完代替療法 ・米国がん看護学会のPEPカードに提示されている補完代替療法の活用						神里	

第15回	エビデンスに基づいた症状マネジメントの看護援助の開発 ・がん患者の苦痛症状を取り挙げた事例を提示し、エビデンス・ベースド・プラクティスの概念やガイドラインを参考に、症状緩和の看護援助について考察する。学生のプレゼンテーションと討論。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会. (2013). がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版 ・日本がんリハビリテーション研究会. (2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス. 金原出版 ・鈴木志津枝, 小松浩子監修, 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ. (2013) がん看護 PEP リソース 患者のアウトカムを高めるケアのエビデンス (2013). 医学書院 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・日本看護協会. (2014). 外来がん化学療法 看護ガイドライン. 金原出版 ・日本放射線腫瘍学会編. (2012). 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版. 金原出版 ・日本乳癌学会 (編集). (2015). 科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン 2 疫学・診断編 2015年版. 金原出版 ・特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 (編集). (2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・小澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-, 南江堂 ・田原信(編), 鈴木真也・榎田智弘. (2015). 地域医療連携サポート BOOK フローチャートでわかるがん化学療法の副作用. 南江堂 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著). (2015). がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7つのフェーズ・21 の実践. 中央法規 ・Robert Twycross(著), Andrew Wilcock(著), Claire Stark Toller(著), 武田文和(翻訳). (2010). トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント 第2版, 医学書院 ・辻 哲也 (編集). (2011). がんのリハビリテーションマニュアル: 周術期から緩和ケアまで 医学書院 ・ケリー・ターナー著、長田美穂訳. (2014). 余命宣告から「劇的な寛解」に至った人たちが実践している 9つのこと、がんが自然に治る生き方、プレジデント社 ・日本緩和医療学会. (2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版. 金原出版 ・日本緩和医療学会 (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 <p>・必要に応じて紹介する。随時参考資料を配布する。</p>	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として、症状マネジメントに関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

科目 コード	51644	授業 科目	実践がん看護特論Ⅳ Practical Oncology Nursing TheoryⅣ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 吉澤 龍太(非常勤) 笹良剛史(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講 義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	緩和ケア領域と終末期におけるがん患者と家族に対する看護援助について習得し、がん看護専門看護師の役割と変革者としての方略を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念について説明できる。 2. 緩和ケアにおける看護援助法について説明できる。 3. 終末期におけるがん患者、家族・遺族ケアについて説明できる 4. がん看護専門看護師の役割について説明できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担 当 者 名	
第1回	緩和ケアの概念と看護の役割						神里	
第2回	国内外における緩和ケアと終末期看護に関する現状と課題						謝花	
第3回	緩和ケア領域における看護介入の方略						謝花	
第4・5回	がん性疼痛のメカニズムと薬物療法 ・がん性疼痛のメカニズム ・がん性疼痛のアセスメント、薬物療法と副作用症状のマネジメント						笹良 (非常勤)	
第6・7回	がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入 ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法のエビデンス ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入の実際						神里	
第8・9回	スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア ・スピリチュアルペインのアセスメントとその指標(臨床で活用可能なシート) ・スピリチュアルケアの実際：事例を用いた患者・家族への援助スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア						謝花	
第10回	がん患者と家族・遺族のサポートのためのプログラム						謝花	
第11回	緩和ケアチームと多職種協働 ・緩和ケアチームにおける看護師の役割と多職種協働(医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ボランティアなど：退院調整を含む)						吉澤 (非常勤) (CNS)	
第12回	終末期がん患者・家族を取り巻く倫理的問題とアドボカシー						謝花	
第13・14回	変革者としてのがん看護専門看護師の実践的活動と役割 ・実践現場における専門看護師の活動の実際：6つの役割 ・変革者としての課題解決の実例						吉澤 (非常勤) (CNS)	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・井部俊子・大生定義（監修）. (2015). 専門看護師の思考と実践、医学書院 ・日本緩和医療学会. (2014). がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版. 金原出版. ・日本緩和医療学会. (2013). 終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン 7 版. 日本緩和医療学会. 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2013). 苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン. 日本緩和医療学会. 金原出版 ・近藤まゆみ, 嶺岸秀子(編). (2006). がんサバイバーシップ がんとともに生きる人々への看護ケア. 医歯薬出版. ・近藤 まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかわり. 仲村書林 ・季羽俊文子, 丸口ミサエ(監修). (2005). がん患者と家族のサポートプログラム「がんを知って歩む会」の基本と実践. 青海社. ・緩和ケア編集委員会. (2007). 緩和ケアにおけるがん患者の家族ケア. 青海社. ・緩和ケア編集委員会. (2009). 緩和ケアをとともに学ぶ、教える一伝えようとするスタッフのために一. 青海社. ・千崎美登子. (2008). 事例で学ぶがん患者の退院調整～困難事例の“解決”を探る～. がん看護. 13. ・「緩和医療学」編集委員会(著). (2009)がん在宅医療と緩和医療. 緩和医療学. ・平原 佐斗司. (2013). チャレンジ! 在宅がん緩和ケア (在宅医療の技とこころ). 南山堂 ・柴木実枝(監), 濱口恵子・花出正美(編). (2015). 見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著). (2015). がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる7つのフェーズ・21の実践. 中央法規 ・狩野太郎・神田清子(編), 日本がん看護学会(監). (2015). がん看護実践ガイドがん治療と食事 治療中の食べるよろこびを支える援助, 医学書院 ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本66とアドバンス44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-. 南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部(編著). (2015). 急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ. 中央法規 ・国内外の最新の学術論文を随時資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。

科目コード	51645	授業科目	実践がん看護演習 I Practical Oncology Nursing Seminar I			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 濱田香純(非常勤) 玉井なおみ(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	最新の文献を活用し、がんの告知から診断・治療・フォローアップ、予防に至るまでのがん患者や家族に対する看護援助の基礎的概念を理解し、介入モデルを実践で活用できる能力を養う。							
到達目標	1. がん看護に関する最新の看護援助について述べることができる。 2. がん患者の状態に応じた看護援助について説明できる 3. 実践で活用可能な看護介入モデルについて説明できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	国内外におけるがん看護専門職者の活動の現状 ・国内におけるがん看護専門看護師の活動の現状 ・諸外国におけるがん看護専門看護師の活動の現状(英国・米国・台湾)						神里	
第3回	がん対策基本法におけるがん看護の役割						神里	
第4回	病名告知と予後告知における患者・家族への看護介入モデル						神里	
第5回	治療の選択とセカンドオピニオン時における看護援助(意思決定支援など)						神里	
第6・7回	手術療法と看護援助 ・がんの部位別にみる周手術期のアセスメントの特徴とその看護(2事例以上のがんの部位別による特徴) ・術後退院調整、術後機能障害、リハビリテーションに関する事例検討						謝花	
第8・9回	放射線療法と看護援助 ・がんの部位別による放射線療法のアセスメントの特徴とその看護(頭頸部がんとその他の部位別の事例による特徴) ・外来放射線療法を受ける患者・家族の困難事例の検討						謝花	
第10・11回	化学療法と看護援助 ・化学療法の有害事象を早期発見するためのアセスメントとその看護 ・外来化学療法を受ける患者・家族の困難事例の検討						謝花	
第12・13回	がん看護におけるテレナーシングとトリアージ ・がん看護におけるテレナーシング(通院や在宅の患者・家族対象)の技法 ・がん看護におけるトリアージ(通院や在宅の患者・家族対象)の技法						神里	
第14・15回	急変・救急時におけるがん看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族のアセスメントと看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族の事例検討						謝花	

第16・17回	がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助 ・がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助の特徴 ・院内・院外におけるサポートプログラムの実際	濱田 (非常勤)
第18・19回	がん予防に対する患者教育の開発と普及 ・がん予防に関する患者・家族への教育支援体制 ・がん予防活動を実践で展開していくための方略(活動事例)	玉井 (非常勤)
第20～24回	ホリスティックケアと補完代替療法のエビデンス ・がん看護におけるホリスティックケアの概念とアプローチの方法 ・補完代替療法のエビデンスを実践で活用するための方略 ・Putting Evidence for Practice カード(米国がん看護学会)の実践での活用 ・患者・家族に対するガイドラインを活用した補完代替療法の教育と看護実践 ・がん患者・家族の補完代替療法の活用に関する困難事例	神里
第25・26回	がん看護に関する看護介入モデルの検討① ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第27・28回	がん看護に関する看護介入モデルの検討② ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第29・30回	がん看護に関する看護介入モデルの検討③ ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
テキスト	日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木 志津枝. (2013). がん看護 PEP リソース—患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院 ・日本がん看護学会 . (2014). 外来がん化学療法看護ガイドライン 1 2014 年版; 抗がん剤の血管外漏出およびデバイス合併症の予防・早期発見・対処、2014、金原出版 ・佐藤 禮子. (2009). がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン, 医学書院 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・根拠がわかるがん看護ベストプラクティス. (2012). がん看護, Vol. 17 No. 2, 2012、南江堂 ・がん治療に伴う変化をとらえる 実践に生きるアセスメントツール. (2014). がん看護, Vol. 19 No. 7. 南江堂 ・がんサバイバーシップの今. (2012). がん看護, Vol. 17 No. 4, 南江堂 ・Kenneth D. Miller (編)、勝俣 範之 (監訳). (2012). がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす, 医学書院 ・日野原 重明 (監). (2014). 実践 がんサバイバーシップ—患者の人生を共に考えるがん医療をめざして, 医学書院 ・近藤 まゆみ、嶺岸 秀子 (編). (2006). がんサバイバーシップ— がんとともに生きる人びとへの看護ケア, 医歯薬出版 ・近藤 まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ— “生きぬく力” を高めるかかわり. 仲村書林 ・聖路加看護大学テレナーシング SIG (編). (2013). テレナーシング実践ガイドライン, ワールドプランニング ・Margaret Hickey Susan Newton : Telephone triage for oncology nurses. (2012). Oncology Nursing Society 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・山崎 章郎、二ノ坂保喜著、米沢慧編. (2012). 病院で死ぬのはもったいない、いのちを受けとめる新しい町へ, 春秋社 ・日本放射線腫瘍学会 編集. (2012). 放射線治療計画ガイドライン 2012 版、金原出版 ・丹生健一、佐々木良平、鈴木志津江. (2011). 目で見て学ぶ放射線療法の有害反応 多職種チームで実践する治療と患者支援、日本看護協会出版会. ・勝俣 範之. (2012). がんサバイバー—医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす. 医学書院 ・中根 実. (2015). がんエマージェンシー: 化学療法の有害反応と緊急症への対応 医学書院 ・日本がん看護学会. (2016). オンコロジックエマージェンシー—病棟・外来での早期発見と帰宅後の電話サポート (がん看護実践ガイド) . 医学書院 <p>国内外の最新の学術論文を資料として配布する。</p>
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備考	事前学習として、国内外のがん看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。

科目コード	51646	授業科目	実践がん看護演習Ⅱ Practical Oncology Nursing Seminar Ⅱ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	緩和ケア・終末期がん看護に関する課題に焦点をおき、国内外の最新の文献検討やがん看護実践活動を通して、高度な専門的実践能力を養うための知識や技法を習得する。特にがん患者の苦痛症状マネジメントに関するアセスメントとエビデンスに基づいた看護援助の方法に焦点をあてた学習を行う。また、実習、課題研究を行うために自己の課題に関する概念枠組みについて探求する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期におけるがん看護援助について説明できる。 2. 苦痛症状のアセスメントの技法について説明できる。 3. 症状マネジメントの看護援助について説明できる。 4. がん看護実践現場における課題を明確化できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	終末期がん患者が抱える様々な苦痛症状と看護援助 ・全人的な苦痛症状(身体・社会・精神・霊的側面)のアセスメント ・全人的ケアのための看護援助の方略						神里	
第3・4回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(疼痛) ・疼痛コントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・疼痛コントロールの困難事例の検討						神里	
第5・6回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(倦怠感) ・倦怠感のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・倦怠感のコントロールの困難事例の検討						神里	
第7・8回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(呼吸困難) ・呼吸困難のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・呼吸困難のコントロールの困難事例の検討						謝花	
第9・10回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(吐き気・嘔吐) ・吐き気・嘔吐のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・吐き気・嘔吐のコントロールの困難事例の検討						謝花	
第11・12回	症状コントロールのための補完代替療法の理論と実際(アロマセラピー) ・症状コントロールのためのアロマセラピーの理論 ・苦痛症状の緩和に対するアロマセラピーを活用した実践事例						神里	
第13・14回	リンパ浮腫の病態生理とリンパマッサージの実際 ・終末期がん患者のリンパ浮腫の病態生理 ・リンパマッサージの実践事例						謝花	
第15・16回	がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークの実際 ・がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークとしての看護援助 ・がん患者の家族・遺族のグリーフワークに関する事例検討						謝花	

第17・18回	補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状緩和のエビデンス	神里
第19・20回	補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状緩和のエビデンス ・実践で活用できるための方略 ・がん看護実践現場における課題の明確化と看護介入モデルの検討	神里
第21～30回	・臨床現場における課題を明確にするための情報収集 ・課題を明確にし、課題の解決に向けての看護活動の展開方略の検討 ・看護実践をするための調整(倫理調整含む) やコンサルテーションの方略 ・看護実践を行うための看護介入モデルの検討	神里 謝花
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本緩和医療学会. (2014). がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版. 金原出版. ・日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員. (2013). 終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2011). がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版. ・リンパ浮腫研究会. (2014). リンパ浮腫 診療ガイドライン、金原出版 ・日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会. (2013). がんのリハビリテーションガイドライン, 金原出版株式会社 ・日本がんリハビリテーション研究会. (2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス, 金原出版株式会社 ・リンパ浮腫ケア～がん患者のリンパ浮腫の理解と看護の役割～、13(7)、2008. ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-, 南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部. (2015). 急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ, 中央法規 ・島崎寛将、倉津滋之、山崎圭一、江藤美和子. (2013). 緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、中山書店 ・日本緩和医療学会. (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 ・日本緩和医療学会. (2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016年版. 金原出版 ・広瀬 寛子. (2011) 悲嘆とグリーフケア. 医学書院 ・坂口 幸弘 . (2012). 死別の悲しみに向き合うーグリーフケアとは何か. 講談社 ・坂口 幸弘. (2010). 悲嘆学入門ー死別の悲しみを学ぶ. 昭和堂 <p>国内外の最新の学術論文を資料として配布する。</p>	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。	

科目 コード	51647	授業 科目	実践がん看護実習 I Practical Oncology Nursing Practicum I			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間					
授業概要	<p>1. がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発ができるような基礎的な能力を養う。</p> <p>2. がん看護専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）を実践の場で遂行できる能力を身につける。</p>							
到達目標	<p>1. 複雑な患者・家族の事例を2つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。</p> <p>2. 実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈し、説明することができる。</p> <p>3. がん看護専門看護師の役割について説明できる。</p>							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
	<p><実習の進め方></p> <p>実習の段階を2段階に分けて、各段階に応じたがん看護における専門的な看護実践能力を養う。各段階において2週間の実習を行い、計4週間の実習を行う(但し目標を達成しえない場合は延長する)。実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。</p> <p>実習1：がん拠点病院（琉球大学医学部附属病院がんセンター）や緩和ケア病棟において複雑ながん患者や家族の事例を実際に受け持つことによって、質の高い看護援助を実践する。</p> <p>指導者：看護師長、緩和ケア認定看護師</p> <p>実習時期：1年前期後半～後期</p> <p>実習2：がん看護専門看護師が所属する施設において、がん看護専門看護師の指導の下に、専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）について見学・参画しながら学習する。</p> <p>指導者：がん看護専門看護師</p> <p>実習時期：2年次前期前半</p>						<p>神里</p> <p>謝花</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。							
備考								

科目コード	51648	授業科目	実践がん看護実習Ⅱ Practical Oncology Nursing PracticumⅡ			担当教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90時間					
授業概要	がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発が自立してできるような能力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な患者・家族の事例を2つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。 2. 実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈することができる。 3. がん看護専門看護師の役割を意識した看護援助の展開ができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
	<p><実習計画書の作成></p> <p>実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。</p> <p><実習内容></p> <p>がん患者の治療や療養に携わっている一般病院（がん拠点病院）において、実践がん看護実習Ⅰで習得してきたがん看護援助と専門看護師の役割を統合させて、がん看護専門看護師として、がん看護に携わる看護師の相談、教育、倫理調整、臨床研究指導について実践的な計画を立てて遂行してみる。</p> <p>指導者：がん看護専門看護師</p> <p>実習時期：2年前期後半</p>						<p>神里</p> <p>謝花</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。							
備考								

科目 コード	51649	授業 科目	実践がん看護課題研究 Practical Oncology Nursing Problem Study			担当 教員	◎神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	がん看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習Ⅰ(4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。						神里 謝花	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習Ⅱ(2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							
2年次	<4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							

3年次	<p>4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定</p> <p>5月 研究課題にそって情報収集・情報分析</p> <p>6月・10月(2月)総合科目試験 *</p> <p><4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)></p> <p>10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成</p> <p>12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出*</p> <p>1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出*</p> <p>2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 可否及び修了判定</p> <p>3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出*</p> <p style="text-align: right;">※()内は前学期修了予定の日程</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	論文審査・最終試験は、主査1名・副査2名の体制で行います。	
備考	<p>研究指導教員、研究指導補助教員の指導計画に従って下さい。</p> <p>注) *のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。</p> <p>◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。</p>	